

Power Systems

HMC 5250 コンソールの管理

IBM

Power Systems

HMC 5250 コンソールの管理

IBM

— お願い —

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、5 ページの『特記事項』、v ページの『安全上の注意』、資料「*IBM Systems Safety Notices*」(G229-9054)、および「*IBM Environmental Notices and User Guide*」(Z125-5823) に記載されている情報をお読みください。

本製品およびオプションに電源コード・セットが付属する場合は、それぞれ専用のものになっていますので他の電気機器には使用しないでください。

本書は、POWER8 プロセッサを搭載した IBM Power Systems サーバーおよびすべての関連モデルに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： Power Systems

Managing the HMC 5250 console

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 2014.

目次

安全上の注意	v
HMC 5250 コンソールの管理	1
HMC 5250 コンソールの管理の新着情報	1
IBM i 論理区画を 5250 コンソール・セッションに接続する準備	1
5250 コンソールへの接続	1
HMC からのローカル 5250 コンソール・セッションの開始	2
アクティブな IBM i 論理区画からセッションを開く	2
IBM i 論理区画をアクティブにして、セッションを開く	2
HMC からのリモート 5250 コンソール・セッションの開始	2
5250 コンソールの操作	4
特記事項	5
プライバシー・ポリシーに関する考慮事項	6
商標	7
電波障害自主規制特記事項	7
VCCI クラス A 情報技術装置	7
使用条件	7

安全上の注意

安全上の注意は、このガイド全体を通じて記載されています。

- **危険**の注記は、人間に致命的または極めて危険な損傷を与える可能性のある状態について注意を促します。
- **注意**の注記は、何らかの状況が原因の、人間に危険な損傷を与える可能性のある状態について注意を促します。
- **重要**の注記は、プログラム、装置、システム、あるいはデータに損傷を与える可能性があることを示します。

ワールド・トレードの安全上の注意

国によっては、製品資料に記載される安全上の注意を自国語で提示するよう要求しています。この要求がお客様の国に適用される場合は、製品に付属の資料パッケージ (印刷された資料または DVD で、あるいは製品の一部として) に安全上の注意についての文書が含まれます。この文書には、英語原典に準拠した、各国語による安全上の注意が記載されています。この製品の取り付け、操作、または保守のために英語の資料をご使用になる場合は、まず、関連している安全上の注意についての文書をよくお読みください。また、英語版資料の安全上の注意が明確に理解できない場合も、必ずこの文書を参照してください。

安全上の注意についての文書の差し替え版または追加のコピーについては、IBM ホットライン (1-800-300-8751) に連絡して入手することができます。

レーザーに関する安全上の注意

IBM® サーバーは、レーザーまたは LED を使用する、光ファイバー・ベースの I/O カードまたはフィチャーを使用することができます。

レーザーに関する準拠

IBM サーバーは、IT 装置ラックの内部または外部に取り付けることができます。

危険

システムまたはその周辺で作業をする場合は、以下の予防措置を確認してください。

電源ケーブルや電話線、通信ケーブルからの電圧および電流は危険です。感電を防ぐために次の事項を守ってください。

- 電源と装置を接続する場合は、必ず IBM 提供の電源コードを使用してください。IBM 提供の電源コードを他の製品に使用しないでください。
- 電源装置アセンブリーを開いたり、保守しないでください。
- 雷雨の間はケーブルの接続や切り離し、または本製品の設置、保守、再構成を行わないでください。
- この製品は複数の電源コードを備えていることがあります。危険な電圧をすべて除去するには、すべての電源コードを取り外してください。
- すべての電源コードは正しく配線され接地されたコンセントに接続してください。コンセントがシステム定格プレートに従った正しい電圧および相回転を供給していることを確認してください。
- ご使用の製品に接続するすべての装置を、正しく配線されたコンセントに接続してください。
- シグナル・ケーブルの接続または切り離しは可能なかぎり片手で行ってください。
- 火災、水害、または建物に構造的損傷の形跡が見られる場合は、どの装置の電源もオンにしないでください。
- 取り付けおよび構成手順で特別に指示されている場合を除いて、装置のカバーを開く場合はその前に、必ず、接続されている電源コード、通信システム、ネットワーク、およびモデムを切り離してください。
- ご使用の製品または接続されたデバイスの取り付け、移動、またはカバーの取り外しを行う場合には、次の手順に従ってケーブルの接続および取り外しを行ってください。

ケーブルの切り離し手順:

1. すべての電源をオフにします (別に指示される場合を除く)。
2. 電源コードを電源コンセントから取り外します。
3. シグナル・ケーブルをコネクタから取り外します。
4. すべてのケーブルをデバイスから取り外します。

ケーブルの接続手順:

1. すべての電源をオフにします (別に指示される場合を除く)。
2. すべてのケーブルをデバイスに接続します。
3. シグナル・ケーブルをコネクタに接続します。
4. 電源コードをコンセントに接続します。
5. デバイスの電源をオンにします。

(D005)

危険

IT ラック・システムやその周辺で作業をする場合は、以下の予防措置を確認してください。

- 重量のある装置の場合、取り扱いを誤ると身体傷害または設備の損傷を引き起こす可能性があります。
- ラック・キャビネットのレベル・パッドは必ず下げておきます。
- ラック・キャビネットには必ずスタビライザー・ブラケットを取り付けてください。
- 釣り合いがとれていない機械的荷重による危険な状態を避けるため、最も重いデバイスを常に、ラック・キャビネットの下部に取り付けます。必ず、サーバーおよびオプション・デバイスはラック・キャビネットの下部側から取り付けてください。
- ラック・マウント型デバイスを棚やワークスペースとして使用しないでください。ラック・マウント型デバイスの上には何も置かないでください。



- 各ラック・キャビネットには複数の電源コードが付いていることがあります。保守する際に電源を切断するように指図された場合、ラック・キャビネットのすべての電源コードを抜いてください。
- ラック・キャビネット内のすべてのデバイスは、同一ラック・キャビネットに取り付けられている電源デバイスに接続します。あるラック・キャビネットに取り付けられているデバイスの電源コードを、別のラック・キャビネットにある電源デバイスに接続しないでください。
- 正しく配線されていない電源コンセントは、システムまたはシステムに接続されたデバイスの金属部品に危険な電圧をかける可能性があります。感電を避けるためにコンセントが正しく配線および接地されていることの確認は、お客様の責任で行ってください。

注意

- ラック内部の温度が、すべてのラック・マウント型デバイスに対する製造者推奨の周辺温度を超えるようなラック内には、装置を取り付けしないでください。
- 空気の流れが妨げられているラック内には、装置を取り付けしないでください。装置内で空気の流れのために使用される装置のいずれかの側面、前面、または背面で、空気の流れが妨げられたり減速されたりしないようにしてください。
- 回路の過負荷によって電源配線や過電流保護が破損しないように、電源回路への機器の接続には十分注意してください。ラックに正しく電源を接続するには、ラック内の機器の定格ラベルで、電源回路の総消費電力を確認してください。
- (引き出し式ドロワーの場合。) ラック・スタビライザー・ブラケットがラックに取り付けられていない場合は、ドロワーまたはフィーチャーを引き出したり、取り付けたりしないでください。一度に複数のドロワーを引き出さないでください。一度に複数のドロワーを引き出すと、ラックが不安定になる可能性があります。
- (固定式ドロワーの場合。) このドロワーは固定ドロワーなので、製造元の指定がない限り、保守のために動かさないでください。ラックからドロワーの一部または全部を引き出そうとすると、ラックが不安定になったり、ドロワーがラックから落下する可能性があります。

(R001)

注意:

ラック・キャビネット内の上の方の位置からコンポーネントを取り外すと、再配置中のラックの安定性が改善されます。格納されたラック・キャビネットを部屋または建物内で再配置するときは必ず、以下の一般ガイドラインに従ってください。

- ラック・キャビネットの上部から順に装置を取り外すことにより、ラック・キャビネットの重量を減らします。可能な場合は、ラック・キャビネットを納品時のラック・キャビネットの構成に復元します。この構成がわからない場合は、以下の手順を実行する必要があります。
 - 32U 位置以上にあるすべてのデバイスを取り外します。
 - 最も重いデバイスがラック・キャビネットの下部に取り付けられていることを確認します。
 - ラック・キャビネット内で 32U レベルより下に取り付けられたデバイス間に空の U レベルがないことを確認します。
- 再配置しているラック・キャビネットが、一組のラック・キャビネットの一部である場合は、そのスイートからラック・キャビネットを切り離します。
- 通る予定の経路を検査して、障害になる可能性があるものを取り除きます。
- 選択する経路が、搭載されたラック・キャビネットの重量を支えることができるか検査します。搭載されたラック・キャビネットの重量については、ラック・キャビネットに付属の資料を参照してください。
- すべてのドアの開口部が少なくとも 760 x 230 mm 以上であることを確認します。
- すべてのデバイス、シェルフ、ドロワー、ドア、およびケーブルが安定していることを確認します。
- 4 つのレベル・パッドが最も高い位置に上がっていることを確認します。
- 移動時にスタビライザー・ブラケットがラック・キャビネットに取り付けられていないことを確認します。
- 傾斜が 10 度を超えるスロープは使用しないでください。
- ラック・キャビネットが新しい場所に置かれたら、次の手順を実行します。
 - 4 つのレベル・パッドを下げます。
 - スタビライザー・ブラケットをラック・キャビネットに取り付けます。
 - ラック・キャビネットからデバイスを取り外してあった場合は、ラック・キャビネットの最も低い位置から最も高い位置へと格納していきます。
- 長距離の移動が必要な場合は、ラック・キャビネットを納品時のラック・キャビネットの構成に復元します。ラック・キャビネットを元の梱包材、またはそれと同等のもので梱包します。また、レベル・パッドを下げて、キャスターをパレットから離れるように持ち上げ、ラック・キャビネットをパレットにボルトで止めます。

(R002)

(L001)

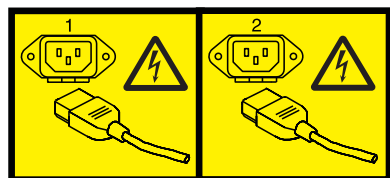


危険: このラベルが貼られているコンポーネントの内部には、危険な電圧、強い電流が流れています。このラベルが付いているカバーまたはバリアは開けないでください。(L001)

(L002)



(L003)



または



または



危険: 複数の電源コード。この製品は複数の電源コードを備えていることがあります。 危険な電圧をすべて除去するには、すべての電源コードを取り外してください。(L003)

(L008)



注意: 近くに危険な可動部品があります。(L008)

すべてのレーザーは、クラス 1 のレーザー製品について規定している米国の保健社会福祉省連邦規則 21 副章 J (DHHS 21 CFR Subchapter J) の要件に準拠していることが認証されています。米国以外の国では、レーザーは、クラス 1 レーザー製品として IEC 60825 に準拠していることが認証されています。レーザー認証番号および承認情報については、各部品のラベルをご覧ください。

注意:

この製品には、クラス 1 のレーザー製品である **CD-ROM ドライブ**、**DVD-ROM ドライブ**、**DVD-RAM ドライブ**、またはレーザー・モジュールの各デバイスのうち 1 つ以上が含まれていることがあります。次の情報に注意してください。

- カバーを外さないこと。カバーを取り外すと有害なレーザー光を浴びることがあります。この装置の内部には保守が可能な部品はありません。
- 本書に記述されている以外の手順、制御または調節を行うと有害な光線を浴びることがあります。

(C026)

注意:

データ処理環境には、クラス 1 のパワー・レベルより高いレベルで作動するレーザー・モジュールを備えるシステム・リンク上で伝送する装置が含まれることがあります。この理由から、光ファイバー・ケーブルの先端、またはコンセントの差込口を覗き込まないでください。(C027)

注意:

この製品には、クラス 1M のレーザーが含まれています。光学装置を用いて直接見ないでください。

(C028)

注意:

一部のレーザー製品には、クラス 3A またはクラス 3B のレーザー・ダイオードが組み込まれています。次の点に注意してください。カバーを開くとレーザー光線の照射があります。光線を見つめたり、光学装置を用いて直接見たり、光線を直接浴びることは避けてください。(C030)

注意:

このバッテリーにはリチウムが含まれています。爆発することがありますので、バッテリーを火中に入れたり、充電したりしないでください。

次の行為は絶対にしないでください。

- ____ 水に投げ込む、あるいは浸す
- ____ 100°C (華氏 212 度) を超える過熱
- ____ 修理または分解

IBM 承認の部品のみと交換してください。バッテリーのリサイクルまたは廃棄については、地方自治体の条例に従ってください。米国では、IBM がこのバッテリーの回収プロセスを設けています。詳しくは、1-800-426-4333 にお問い合わせください。お問い合わせの前に、このバッテリー・ユニットの IBM 部品番号をご用意ください。(C003)

NEBS (Network Equipment-Building System) GR-1089-CORE の電源および配線の情報

以下のコメントは、NEBS (Network Equipment-Building System) GR-1089-CORE 準拠として指定された IBM サーバーに適用されます。

装置は、以下での設置に適しています。

- ネットワーク通信設備
- NEC (National Electrical Code) が適用される場所

この装置のイントラビルディング・ポートは、イントラビルディングまたは屋外に露出していない配線またはケーブル接続にのみ適しています。この装置のイントラビルディング・ポートを OSP (屋外施設) やその配線に接続されているインターフェースの金属部と接続しないでください。これらのインターフェースは、イントラビルディング・インターフェース (GR-1089-CORE 記載のタイプ 2 ポートまたはタイプ 4 ポート) としてのみ使用するよう設計されており、屋外に露出した OSP 配線とは分離する必要があります。1 次保護装置を追加しても、これらのインターフェースと OSP 配線の金属部の接続を十分に保護することはできません。

注: すべてのイーサネット・ケーブルは、シールドされ、両端が接地されている必要があります。

AC 電源システムに、外部サージ保護装置 (SPD) を使用する必要はありません。

DC 電源システムは、分離 DC 帰還 (DC-I) 設計を採用しています。DC バッテリー帰還端子をシャーシまたはフレーム・アースに接続しないでください。

HMC 5250 コンソールの管理

ハードウェア管理コンソール (HMC) が、IBM i 論理区画用の 5250 コンソールとして働くために、どのようなサポートを行うかを説明します。

注: リモート HMC クライアントは、5250 エミュレーターを開始することはできません。

HMC 5250 コンソールの管理の新着情報

HMC 5250 コンソールの管理について、前回の更新以降に導入された新規部分と大幅に変更された部分は、このトピック集をお読みください。

2014 年 6 月

- POWER8™ プロセッサを搭載した IBM Power Systems™ サーバーに関する情報を追加しました。

IBM i 論理区画を 5250 コンソール・セッションに接続する準備

ハードウェア管理コンソール (HMC) 上の 5250 コンソールと通信できるように IBM i 論理区画をセットアップする方法を説明します。

HMC を使用して、5250 コンソールに接続するには、IBM i 論理区画のプロファイル・プロパティが適切にセットアップされていることを確認する必要があります。5250 コンソールに接続できるように IBM i 論理区画上のプロパティをセットアップするには、以下の手順を行います。

1. ナビゲーション領域で、「システム管理」を展開します。
2. 「サーバー」を展開して、処理を行う IBM i 論理区画を含むサーバーを選択します。
3. コンテンツ・ペインから、処理を行う論理区画を選択します。
4. 「タスク」 > 「構成」 > 「管理プロファイル」を選択します。
5. 処理するプロファイルを選択し、「アクション (Actions)」 > 「編集 (Edit)」を選択します。
6. 「タグ付き I/O (Tagged I/O)」をクリックします。
7. 「コンソール」メニューの下に「ハードウェア管理コンソール」が表示されていることを確認してから、「OK」をクリックします。
8. 「閉じる」をクリックします。

これで、論理区画がHMCを使用して 5250 コンソール・セッションを行う準備ができました。区画プロファイルの入出力アダプター (IOA) にタグ付けすると、区画プロファイルの更新後の次の活動化時に、自動的にコンソール・タイプが設定されます。初期プログラム・ロード (IPL) は、変更された区画プロファイルを読み込みません。

5250 コンソールへの接続

IBM i 論理区画と通信できるようにするために、ハードウェア管理コンソール (HMC) 上の 5250 コンソールに接続する方法を説明します。

5250 コンソールに接続して、IBM i 論理区画と通信できるようにするには、管理システムを管理している HMC 上の 5250 プロキシに接続する必要があります。

HMC からのローカル 5250 コンソール・セッションの開始

アクティブな論理区画から、あるいは IBM i 論理区画をハードウェア管理コンソール (HMC) からアクティブにして、5250 コンソール・セッションをローカルで開くことができます。

アクティブな IBM i 論理区画からセッションを開く

IBM i 論理区画がアクティブである場合は、その論理区画から 5250 コンソールを開くことができます。

アクティブな論理区画から 5250 コンソールにローカルに接続するためには、以下の手順を行ってください。

1. ナビゲーション領域で、「システム管理」を展開します。
2. 「サーバー」を選択して、処理を行う IBM i 論理区画をもつサーバーを選択します。
3. コンテンツ領域で、論理区画を右クリックして、以下のオプションから選択を行います。
 - 「専用 5250 コンソールを開く (Open dedicated 5250 console)」: このオプションを選択した場合、他のユーザーがこのセッションを共用することはできません。
 - 「共用 5250 コンソールを開く (Open shared 5250 console)」: このオプションを選択した場合、このセッションは、他のユーザーと共用することができます。例えば、数時間かかると思われるバックアップを開始してから、本人が、あるいは他のユーザーが、オフィスまたは家庭内の別のワークステーションからそのバックアップを管理することができます。
4. 「共用 5250 コンソールを開く (Open shared 5250 console)」を選択した場合は、他のユーザーが他の 5250 エミュレーターで使用できるセッション鍵を入力する必要があります。最初のユーザーは、正確性を確認するために、セッション鍵を 2 回入力します。この鍵には、数字桁を含める必要があります。backup1key のように、実行している作業を表す内容にすることもできます。このオプションを使用して、以下の操作を行うことができます。
 - コンソール・セッションを共用する
 - 同じ論理区画コンソール・ウィンドウを見る
 - 各論理区画コンソール・ウィンドウをナビゲートする

IBM i 論理区画をアクティブにして、セッションを開く

IBM i 論理区画がアクティブでない場合は、それをアクティブにして、5250 コンソールを開くことができます。

5250 コンソールを開くには、以下の手順を実行してください。

1. ナビゲーション領域で、「システム管理」を展開します。
2. 「サーバー」を選択して、処理を行う IBM i 論理区画をもつサーバーを選択します。
3. コンテンツ領域から、アクティブにして、5250 コンソール・セッションを開きたい論理区画を選択します。
4. 「操作」 > 「タスク」 > 「アクティブにする」を選択します。
5. 「端末ウィンドウまたはコンソール・セッションを開く (Open a terminal window or console session)」を選択します。
6. 「OK」をクリックします。論理区画がアクティブにされ、5250 セッションが開かれます。要求された場合は、セッション鍵を入力します。

HMC からのリモート 5250 コンソール・セッションの開始

5250 コンソールをリモート側で接続する方法とリモート・セキュリティおよびハードウェア管理コンソール (HMC) のファイアウォールを構成する方法の説明

HMC 5250 のリモート・サポートでは、Secure Sockets Layer (SSL) による暗号化が使用されます。HMC へのすべてのリモート・アクセスに必要な SSL 暗号化には、この暗号化のための鍵を提供する証明書が必要です。HMC は、この暗号化を可能にする自己署名証明書を提供します。

リモート側で 5250 コンソールに接続するために、次のいずれかのエミュレーターを使用する必要があります。

- IBM i Access Client Solutions (5250 コンソール)
- IBM i Access for Windows (PC5250)
- IBM Personal Communications 5250 エミュレーター、バージョン 5.7 またはそれ以降

リモート側で接続するには、以下の手順を行ってください。

1. Linux、Mac、および Windows の環境の場合には、リモート HMC 5250 コンソールを構成することができます。

Linux、Mac、または Windows の環境で HMC 5250 コンソールを構成するには、以下を実行します。

- a. 「IBM i Access Client Solutions」を開始します。
- b. メインパネルから、「システム構成」を選択します。
- c. システムが構成済みシステムのリストに既に入っている場合は、「システム」を選択してから、「編集」を選択します。システムが構成済みシステムのリストにまだ入っていない場合は、「新規」を選択します。「一般」タブで、「システム名」フィールドにシステムのホスト名または IP アドレスを入力します。
- d. 「コンソール」タブを選択します。
- e. 「HMC 5250 コンソール」を選択します。
- f. HMC ホスト名または IP アドレスを入力します。
- g. 「OK」をクリックします。
- h. 「閉じる」をクリックします。
- i. メインパネルから、今構成した HMC コンソール構成が含まれているシステム名を選択します。これが、「システム構成」の「一般」タブに示されるシステム名になります。
- j. 5250 コンソールを始動するために、「5250 コンソール」をクリックします。

PC5250 または IBM Personal Communications のいずれかが稼働している Windows 環境を構成するには、以下を実行します。

- a. 使用する PC 上で、5250 エミュレーター・アプリケーションを開きます。
- b. 新規セッションを作成します。
- c. 「PC5250 の構成 (Configure PC5250)」ウィンドウの「システム名 (System Name)」フィールドに HMC ホスト名または IP アドレスを入力して、ポート番号を示します。SSL を使用していない場合は、ポート番号のフィールドに 2300 と入力し、SSL を使用している場合は 2301 と入力します。
- d. 「プロパティ」を選択します。
- e. IBM iSeries® Access PC5250 エミュレーターを使用している場合は、以下の手順に従います。
 - 1) このメニューで、「デフォルト・ユーザー ID の使用、必要時にプロンプト」を選択します。
 - 2) Q#HMC を「ユーザー ID」フィールドに入力します。

注: このユーザー ID、Q#HMC は、セキュリティ認証には使用されません。HMC Telnet Proxy から追加のセキュリティ値を入力するようプロンプトが出されます。

- 3) SSL を使用していない場合は、セキュリティーの設定として「**保護されない (Not secured)**」を選択し、SSL を使用している場合は、現行レベルを選択します。
2. 5250 エミュレーターを開いて、インターフェースで表示する言語を選択します。
3. HMC ユーザー ID とパスワードを使用してログインします。
4. 接続する論理区画を含む管理システムを選択します。
5. 接続する論理区画を選択します。
 - 「**共用**」を選択する場合は、他のユーザーが他の 5250 エミュレーターで利用できるセッション鍵を入力する必要があります。最初のユーザーは、正確性を確認するために、セッション鍵を 2 回入力します。
 - 「**専用**」を選択した場合、そのセッションは、他のユーザーと共用できません。
 - 「**詳細**」を選択すると、その論理区画に接続されているユーザーを表示することができます。

関連情報:



HMC ファイアウォール設定の変更



システム管理サービスの開始

5250 コンソールの操作

正常に 5250 コンソールに接続した後、5250 コンソールの操作に使用できるオプションが多数あります。

5250 コンソールの操作に関する詳しい情報を得るには、以下の手順を実行してください。

1. IBM i Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter>) にアクセスして、以下のオプションのいずれかを選択します。
 - 「**i 7.2**」を選択した場合は、「**IBM i 7.2 Information Center**」を展開します。
 - 「**i 7.1**」を選択した場合は、「**IBM i 7.1 Information Center**」を展開します。
2. 「**Basic system operations (基本システム操作)**」 > 「**Overview of basic system operations (基本システム操作の概要)**」 > 「**Using system interfaces (システム・インターフェースの使用)**」を展開します。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。この資料は IBM から他の言語で入手できる場合があります。ただし、その資料にアクセスするには、その言語の製品または製品バージョンを所有していなければならない場合があります。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権（特許出願中のものを含む）を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同等である保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確証できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

本書に示されている図や仕様は、IBM の書面による許可を得ずにその一部または全部を複製してはなりません。

IBM は、示されている特定のマシンを対象として本書を作成しています。その他の使用および使用結果については、IBM は何ら保証責任を負いません。

IBM のコンピューター・システムには、破壊または損失したデータが検出されない危険性を減少するために設計されたメカニズムが含まれています。しかし、この危険性をゼロにすることはできません。不意の停電によるシステムの休止やシステム障害、電力の変動または停電、もしくはコンポーネント障害を経験するユーザーは、停電または障害が起きた時刻もしくはその近辺で行われたシステム操作とセーブまたは転送されたデータの正確性を検証する必要があります。さらに、ユーザーはそのような不安定で危機的な状況で操作されたデータを信頼する前に、独自のデータ検証手順を確立する必要があります。ユーザーはシステムおよび関連ソフトウェアに適用できる更新情報または修正がないか、定期的に IBM の Web サイトをチェックする必要があります。

認定ステートメント

本製品は、お客様の国で、いかなる方法においても公共通信ネットワークのインターフェースへの接続について認定されていない可能性があります。そのような接続を行うには、事前に法律によるさらなる認定が必要です。ご不明な点がある場合は、IBM 担当員または販売店にお問い合わせください。

プライバシー・ポリシーに関する考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie をはじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。多くの場合、ソフトウェア・オファリングにより個人情報収集されることはありません。IBM の「ソフトウェア・オファリング」の一部には、個人情報を収集できる機能を持つものがあります。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらのCookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項を確認ください。

この「ソフトウェア・オファリング」は、Cookie もしくはその他のテクノロジーを使用して個人情報を収集することはありません。

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限りません。

このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』(<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/>) の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』および『IBM Software Products and Software-as-a-Service Privacy Statement』(<http://www.ibm.com/software/info/product-privacy>) を参照してください。

商標

IBM、IBM ロゴ、および ibm.com は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。他の製品名およびサービス名は、IBM または各社の商標です。現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml の「Copyright and trademark information」をご覧ください。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

電波障害自主規制特記事項

VCCI クラス A 情報技術装置

この装置は、クラスA 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

適用可能性: これらの条件は、IBM Web サイトのすべてのご利用条件に追加されるものです。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾を得ずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布（頒布、送信を含む）または表示（上映を含む）することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾を得ずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示したりすることはできません。

権利: ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。



Printed in Japan